

墓石に2次元コード 故人動画にアクセス

立命館大開発



立命館大理工学部の道関隆国教授らが開発した「思い出宅墓」

墓石に彫られた2次元コードをスマートフォンなどのカメラで読み取り、画面に映し出された動画や写真で故人をしのぶ技術を、立命館大理工学部(草津市)

の道関隆国教授(63)らのグループが開発した。道関教授は「大切な思い出を残すのに役立てたら」と普及に意欲をのぞかせている。

道関教授によると、決済サービスなどに利用される2次元バーコードの「QRコード」付きの墓石はすでに販売されているが、複雑な模様のバーコードを墓石に直接彫り込むのは技術的に難しいうえ、プレートに印刷して設置しても、風雨や日光にさらされるうちに

劣化して読み取れなくなってしまう恐れがあった。

道関教授はQRコードに代わる新たな2次元バーコードとして自身が開発した「POROUS CODE (ポラス・コード)」を活用。平面上に空けられた微細な穴の配置をスマホなどのカメラで読み取れば、QRコードと同じように情報を取得できる。墓石に直接彫るが、加工が比較的容易で耐久性も高い。道関教授は「QRコードより目立たず、デザイン性にも優れている」と説明している。

県庁で行われたデモンストレーションでは、豊郷町の石材店「浦部石材工業」が販売する室内用墓石「宅墓」の上部に彫られたコードを同学部がスマホで読み取ると、画面には中島みゆきの歌をバックに、道関教授思い出の写真が流れる動画が映し出された。

道関教授らは事業化に向け、ポラス・コードを読み取るための専用アプリの普及を図るほか、動画や写真などのデータを管理する仕組みなどの構築を進め、「思い出宅墓」としての販売を目指す方針という。